

気高町総合支所整備(耐震化)の推進について

「鳥取市新市域振興ビジョン」において、総合支所は防災の拠点として、また、まちづくりや市民サービスの拠点として住民の利便性なども踏まえ必要な整備を進めて行くことが重要と位置付けられています。

これらを踏まえ、今年度、次の視点から気高町総合支所の耐震化に向けて調査・検討を行います。

○防災機能の向上、○市民が使いやすい環境づくり、○整備方法の比較

1 気高町総合支所の現況

	建築年	築後	構造	耐震対策	各階面積 (㎡)		延床面積 (㎡)	敷地面積 (㎡)	
支所	S 45	45 年	RC造3階	Is 値 0.34	1 階	555.01	1,419	3,927	市有地
					2 階	423.01			
					3 階	423.01			
					PH	18			
増築庁舎	H6	21 年	S 造 2 階	新耐震基準	1 階	264	562		
					2 階	297.88			

- ・庁舎は耐震診断結果が基準¹ (Is 値 0.6) を下回っています。
- ・庁舎、延床面積 1,419 ㎡内、未使用面積が約 324 ㎡
(内訳 ; 2 F : 126 ㎡、3 F : 180 ㎡、PH : 18 ㎡)
- ・一部土砂災害警戒区域内

2 既存施設の活用を検討

	建築年	築後	構造	耐震対策	各階面積 (㎡)		延床面積 (㎡)	敷地面積 (㎡)	
気高保健センター	H15	12 年	RC 造平屋	新耐震基準	1 階	2,250	2,250	6,690	市有地

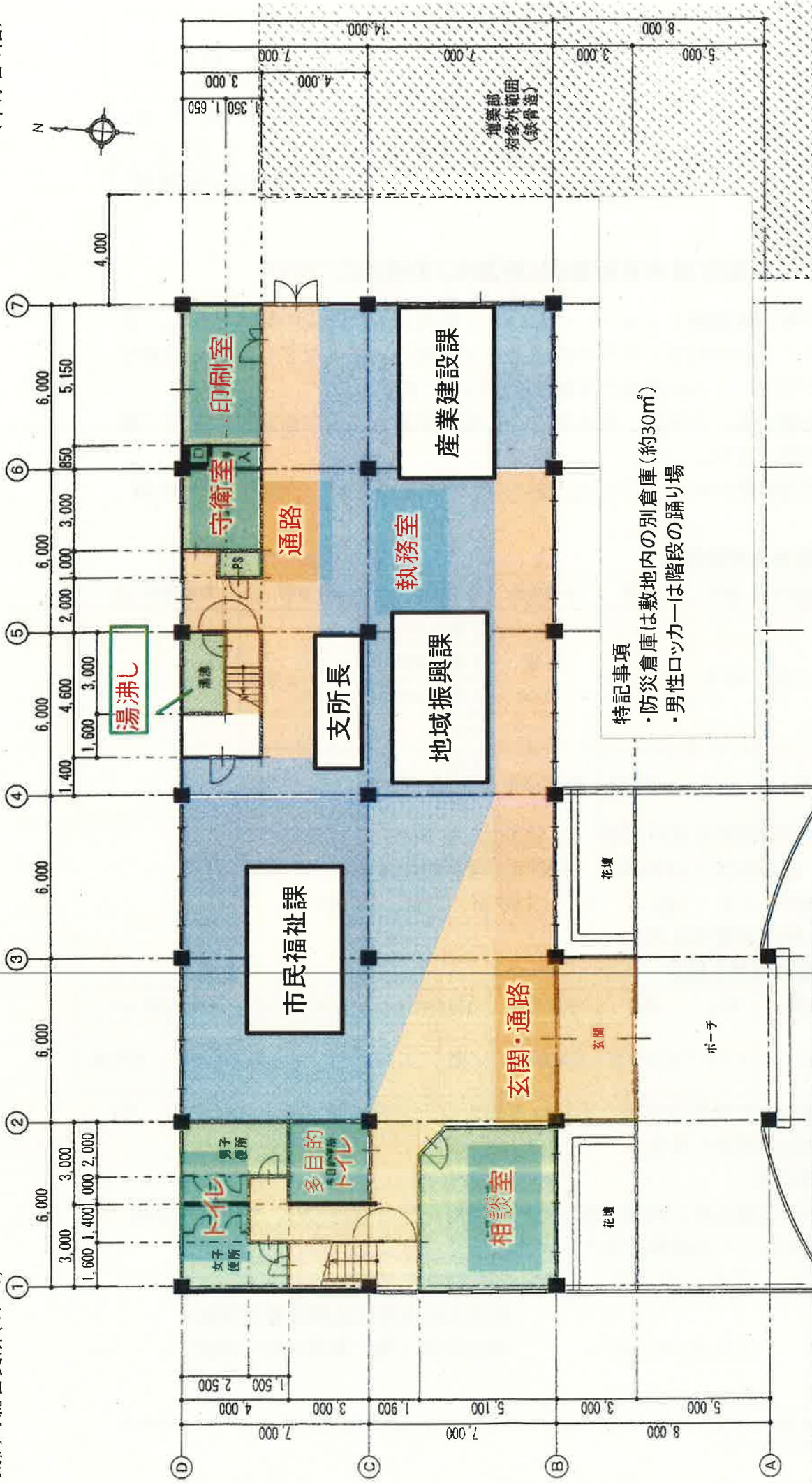
庁舎近隣施設で活用が可能と思われる施設は上表の施設が考えられます。庁舎との複合化を検討します。

3 今後の進め方

現庁舎の耐震改修、新築、既存建物の活用などについての、整備費及び維持管理経費などの比較検討を行います。

《予定》 平成 27 年 4 月～12 月 既存建物候補等の検討
総合支所耐震化基礎調査を実施
平成 28 年 1 月～ 調査結果を基に整備方針の検討

¹ Is 値 : 構造耐震指標といわれ、当該建築物に耐震性があるかないかを図る指標 Is 値が 0.6 以上のときに、その建物が安全であるといえます。

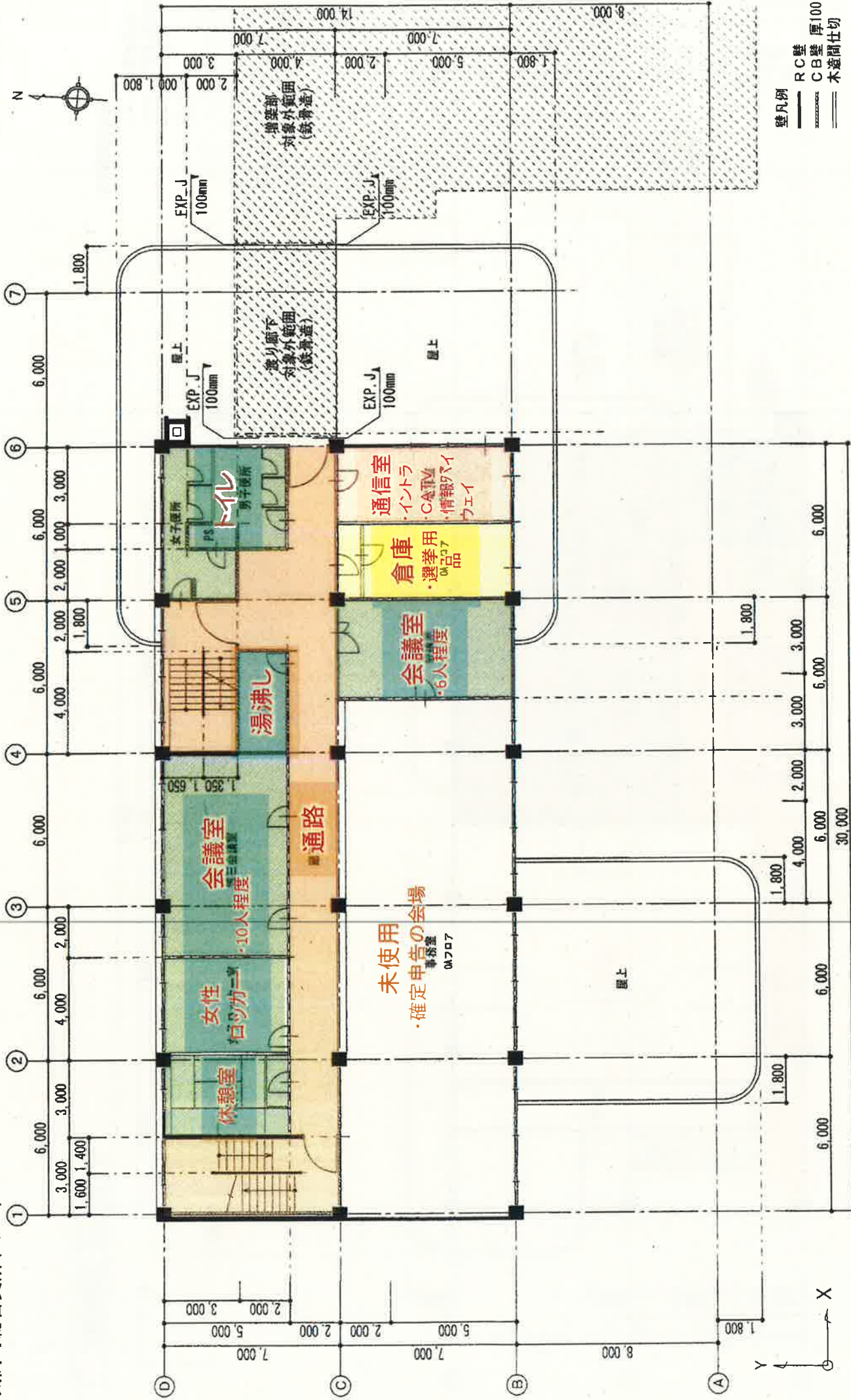


- 執務室(執務室、受付スペース、待合スペース)
 - 倉庫(書庫、倉庫)
 - 諸室(会議室、相談室、印刷室、守衛室、休憩室、トイレ等)
 - 通路(玄関、廊下、階段、エレベーター等)
- 防災(災害対策スペース、備蓄倉庫、防災無線室、通信室)
 ※災害対策スペースは平時は会議室や市民交流スペースとして使用

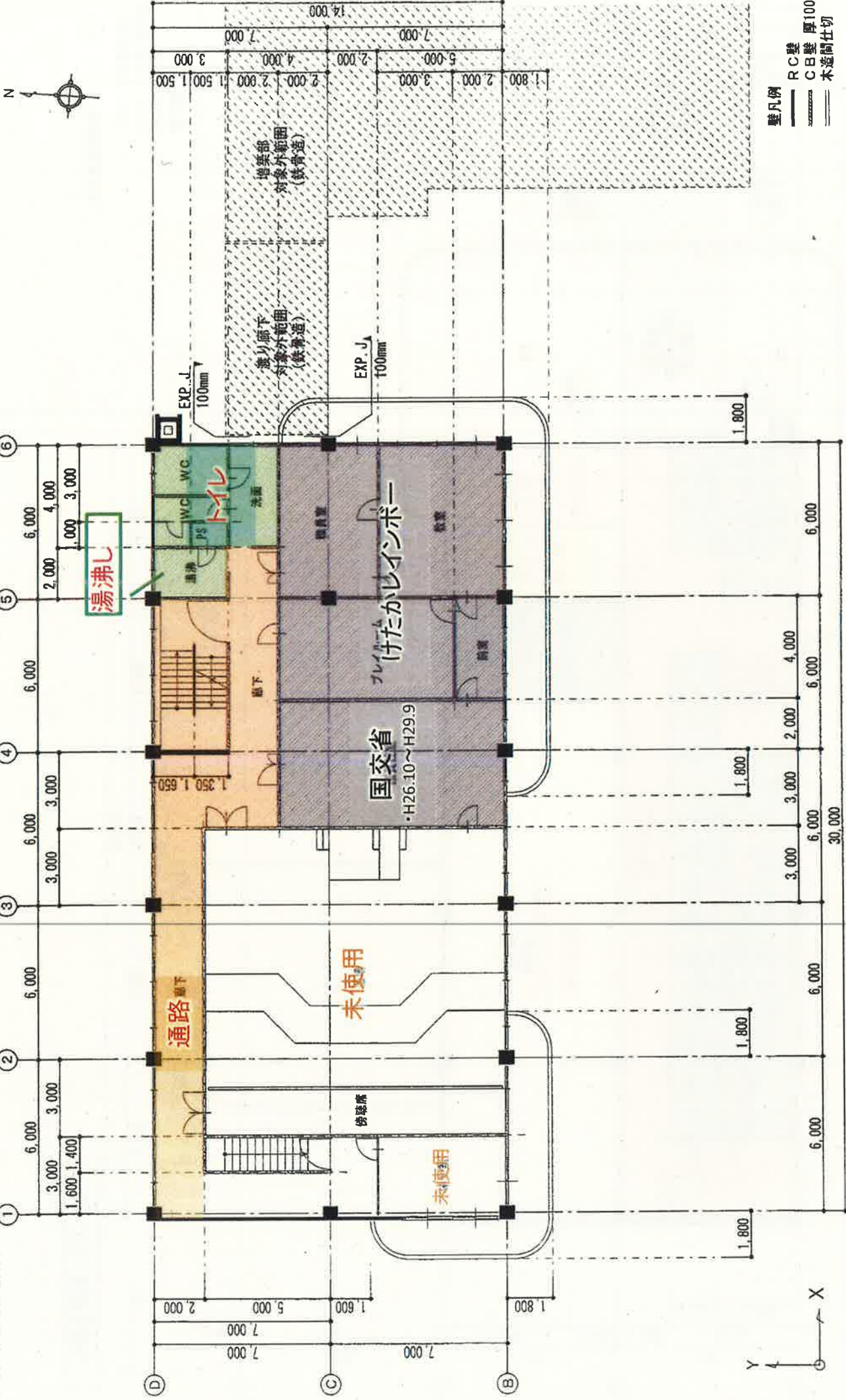
特記事項
 ・防災倉庫は敷地内の別倉庫(約30㎡)
 ・男性ロッカーは階段の踊り場

	建築年	築後	構造	耐震対策	各階面積	延床面積
気高町総合支所	S45	45年	RC造3階	Is値0.34	1階	555.01㎡
					2階	423.01㎡
					3階	423.01㎡
" 増築部	H6	21年	S造2階	新耐震基準	PH	18㎡
					1階	264㎡
					2階	297.88㎡
						562㎡

RC壁
 CB壁 厚100
 木造間仕切



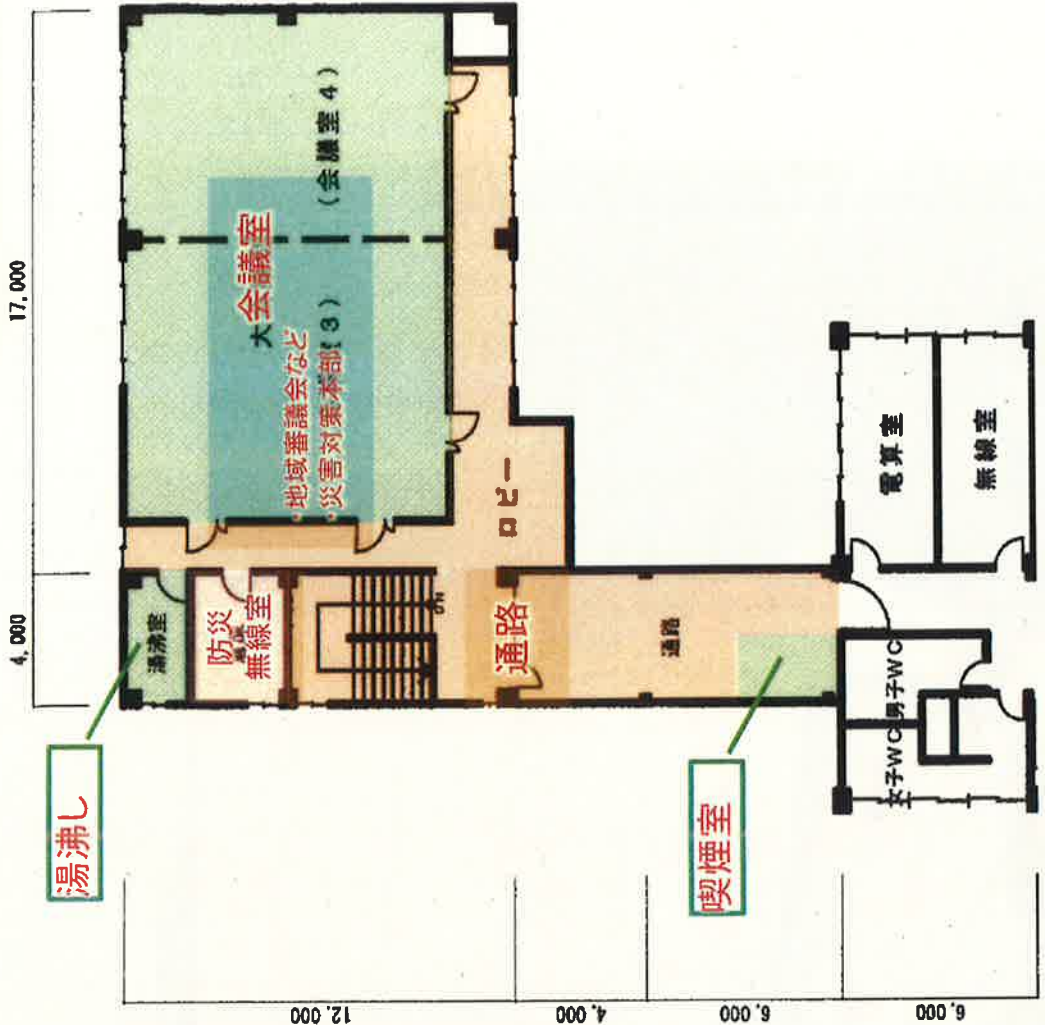
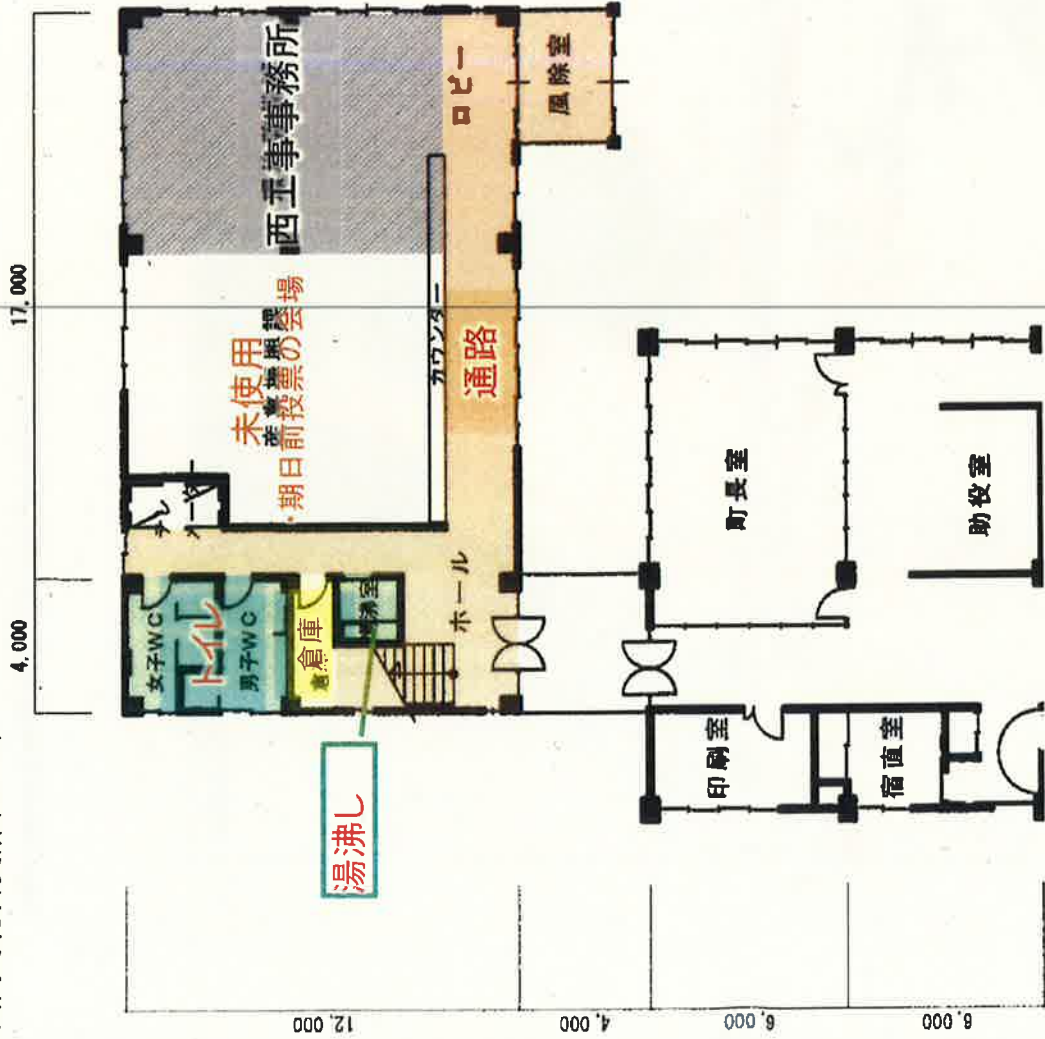
2階平面図 S=1:200



- 壁凡例
- RC壁 厚100
 - CB壁 厚100
 - 木造間仕切

気高町総合支所

3階平面図 S=1:200



とっとりWebマップ - 防災情報

